

- (b) 合成樹脂エマルションシーラーを全面に塗り付ける。ただし、下地調整塗材Eで代用する場合は、省略することができる。
- (c) 仕上塗材の製造所の仕様により下地調整塗材C-1又は下地調整塗材Eを全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、外装薄塗材S仕上げの場合は、下地調整塗材C-2を全面に塗り付けて、平滑にする。
- (イ) 押出成形セメント板面の下地調整は、次による。
 - (a) 下地面の清掃を行う。
 - (b) JASS 18 M-201に基づく塗料を全面に塗り付ける。
なお、仕上塗材の製造所の仕様により、下塗材を JASS 18 M-201に基づく塗料で代用することができる。

4. 5. 6 工法

- (1) 外装薄塗材S i 及び可とう形外装薄塗材S i は、次による。
 - (ア) 材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する水の量で均一になるように行う。ただし、溶剤系の下塗材の場合は、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。
 - (イ) 下塗りは、だれ、塗残しのないように均一に塗り付ける。
 - (ウ) 主材塗りは、次による。
 - (a) 吹付けの場合、見本と同様の模様で均一に仕上がるよう、仕上塗材の製造所の指定する吹付け条件により吹き付ける。
 - (b) ローラー塗りの場合、見本と同様の模様で均一に仕上がるよう、所定のローラーを用いて塗り付ける。
- (2) 外装薄塗材E及び可とう形外装薄塗材Eは、次による。
 - (ア) 材料の練混ぜは、(1) (ア)による。
 - (イ) 下塗りは、(1) (イ)による。
 - (ウ) 主材塗りは、次による。
 - (a) 吹付けの場合は、(1) (ウ) (a)による。
 - (b) ローラー塗りの場合は、(1) (ウ) (b)による。
 - (c) こて塗りの場合は、見本と同様の模様で均一に仕上がるよう、所定のこてを用いて塗り付ける。

外装薄塗材E（砂壁状・吹付け）工法例

工 程	塗料その他			日本ペイント 商品名	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数
	規格番号	規格名称	種類			
既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	4.5.4による。 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上げ外壁等の下地調整は、4.5.5による。 (コンクリート、モルタル、プラスチック、PCパネル、ALCパネル、押出成形セメント板)					
1 下塗材	JIS A 6909	外装薄塗材E 下塗材	—	(1液・水系) ①水性透明シーラー 水道水 100%	0.1 以上	1
2 主材	JIS A 6909	外装薄塗材E 主材	—	(1液・水系) ①リシン 水道水 5~8%	1.0 以上	2

* JIS A 6909 外装薄塗材Eの規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909適合仕様となります。)

●下塗材（既存塗膜の状態や下地の種類等により使用できない場合もあります。）